

# 議 事 録

目 的	第3回尾鷲市総合計画審議会 部会協議
-----	--------------------

日 時	平成28年8月5日（金）19:00～20:00
-----	-------------------------

場 所	本庁2階 会議室
-----	----------

部 会 名	第3部会
-------	------

内 容	
-----	--

## ○出席者

委員：佐々木 康次 氏・塚原 右巳 氏・北村 伸 氏・北村 豪 氏

市：木のまち推進課 内山課長・千種市有林係長

水産商工食のまち課 野地課長・三鬼水産振興係長兼水産商工基盤整備係

市長公室 山本主査

## ○主な協議等内容

・次回開催日 平成28年8月25日（木）19時～

・質疑応答 以下のとおり

進行：部会長 佐々木 康次 氏

## ○質疑

・委員

水産業の振興のところで、海洋深層水の利活用が触れられていない。位置付けはどうなっているのか。

・野地課長

水産利用としては、加工業や活魚車が主なものになっている。陸上養殖など、1次産業としての利活用はなかなか難しい状況であるが、今後も商工観光業と併せて利活用を進めて行きたい。沖縄の久米島では、海ブドウや車エビの養殖をやっているが、取水量が10倍ほどある。取水規模の近い富山や高知の取水地では、加工業などへの利用がメインとなっている。

・三鬼係長

アワビについては、他市町で陸上養殖が研究されて、実用化に向けたデータの蓄積がある。その他にも含めた水産利用としては、事業・企業誘致の中での発展的な利活用について、商工観光業を含めた一つのパッケージとして検討していきたい。活魚車の利用は多い。冷水である深層水は、夏場の利用は特に多い。

・委員

深層水の塩を安く提供する方法は検討できないか。海水だけでなく、食塩もセットであればブランド化をしやすい。現在の値段の半分の価格ならば、容易に水産加工業で使える。深層水の食塩を使って小ロットで生産しているが、味は滑らかになり、価値の高い干物を作ることができると思う。深層水や特産品の高付加価値化に繋がる可能性は高い。

・野地課長

市内では大きく2社を企業誘致しており、A社は製造過程から塩に付加価値化を付けて販売している。一方で、B社の塩はミネラルウォーターの副産物のため、本体の販売が増えれば、結果的に塩の価格も下がってくる可能性はある。ミネラルウォーターも含めた販路拡大を支援していきたい。

・委員

食のまちをテーマとして、観光に力を入れていくこととしているが、まちなかの景観上で、空き家の老朽化が顕著になっており、今後増加することが懸念される。防災の観点からも危険。外来客が安心してまち歩きができるよう、整備する必要がある。

・野地課長

特定空き家への対策や、定住移住の取り組みについては進めており、関係課と調整が必要。

・委員

人口減少が顕著になっている。尾鷲への流動人口を増やさなければならない。

・委員

高速道路が尾鷲北と南が繋ってしまうと、観光客は激減し、人口も減少する。大きな発想の転換が必要だと思う。

・委員

危機感を持って取り組みを行うことが必要。例えば、「尾鷲よいとこ定食の店」の取り組みについて、長年にわたってメニューが変わっていないように思う。「食」をテーマに取り組んで行くのであれば、メニューを開発していくなど、もっと集客できる工夫が必要だと思う。

・野地課長

「食の産業開発」事業に取り組んでおり、飲食メニューの開発を行なっている。特産品開発の取り組みを10年ほど行っているが、その取り組みの飲食店バージョンを行なうことと考えている。現在は5社ほどの事業者が参加していただいている。商工会議所と共同で取り組み、普及啓発に努めていきたい。

・委員

本日の資料を自宅に持ち帰り、次回の審議会の内容について意見をいただきたい。

以上